

## ❖ シンポジウム「みんなで考えよう『群馬の医療通訳制度』」活動報告

「2015年 中央ろうきん助成プログラム」の助成を受けて実施いたしました

後援：群馬県 群馬大学医学部附属病院 群馬県医師会

群馬県医療ソーシャルワーカー協会 上毛新聞 東京外語会群馬支部

協賛：群馬日野自動車株式会社 群馬ダイハツ自動車株式会社

日時：11月15日（日）11時～16時

場所：群馬大学医学部保健学科 新南棟1階 中講義室

### 第1部 講演会

「外国人患者対応のための医療機関における環境整備」 厚生労働省 谷村忠幸氏

「外国人医療の現場」 大和市医師会会長 小林国際クリニック院長

AMD A国際医療情報センター理事長 小林米幸氏

「医療通訳者の未来像」 医療通訳研究会（MEDINT）代表 愛知県立大学非常勤講師

スペイン語通訳/社会福祉士 村松紀子氏

### 第2部 パネルディスカッション「群馬の医療通訳制度～今とこれから～」

「群馬の外国人の状況・群馬県内病院アンケート集計結果報告」

座長 群馬大学 山口和美氏

「群馬県医療通訳ボランティア制度」 群馬県 人権男女多文化共生課 井田智則氏

パネリスト：

群馬県医療ソーシャルワーカー協会 風穴恵美子氏

群馬大学医学部附属病院血液内科助教 柳澤邦雄氏

医療通訳 岩井愛氏

コメンテーター 谷村氏 小林氏 村松氏

---

### 第1部

#### 1 厚生労働省 谷村様

今後オリンピックも控え大きく来日増が見込まれる外国人、仕事での来日や定住化が進んでいる外国語を母語とする方のための病院での受け入れ体制整備（外国人患者受入医療機関認証制度（JMIP）・医療通訳派遣病院整備）について国の進める政策をご説明いただきました。

また、本年度は外国人旅行者受け入れ可能で幅広い症例に対応できる医療機関を都道府県に1か所以上を選定するという動きもあるようです。群馬県ではどちらの病院が選定されるのでしょうか。注目したい動きです。

## 2 小林国際クリニック院長 小林氏

インドシナ難民受け入れから実に30年という長きにわたり、外国の方の健康を守るために奮闘された先生として、そして広域対応の医療・医事電話相談のNPO AMDA国際医療情報センター理事長としてのお話でした。

外国人患者という視点から見た日本社会の動き、法律、外国人診療の課題、外国人医療を医学生・看護学生が学ぶ意味、外国人に向けた広報の課題、外国人にも利用できる日本の医療・福祉制度、医療費未納を発生させないために医療者側が努力すべきこと、文化と医療習慣、疾患の違い、AMDA国際医療情報センターの地道な活動についてなど、まさに宝の玉手箱でした。

是非とも一人でも多くの群馬の病院・診療所の先生、看護師さん、医学を目指す学生の皆さんにお聞きいただきたいと思いました。

病院での通訳配置、またご自身も外国語を使われながら診療に当たられた先生のお話には、お忙しい医療現場の中で医療通訳が交通整理をし、必要な情報を的確にお伝えするという必要であると思いました。医療通訳の原則からは外れるものですが、検討すべき内容であると思います。

予防接種・母子健康手帳の広域連携、検診のお知らせの封筒に多言語で「あなたの健康に大切なお知らせです」と一言付け加えることが大切・・・というお話は、本当に外国語を母語とする方のために一つ一つ丁寧に対応をされていた先生ならではの大切なコメントでした。

小林先生のような先生がお一人でも増えてくださることが心からの願いです。

## 3 医療通訳研究会 (MEDINT) 村松氏

医療通訳者というお立場から、日本全国で外国人診療の課題など広く発信をされている先生のお話は、医療通訳として活動する者の心に重く響きます。

「病気の時くらい安心して医療を受けられる日本社会でありたい」という言葉は、医療通訳として活動する方の精神のよりどころだと思います。「病気と貧困が近い場所にある」

という現状も、医療通訳がボランティアでも受けますという気持ちになる社会的背景です。

「医療通訳のレベルを明確にするための認証・検定、継続研修の義務化」は今後の大きな課題です。「質の確保には報酬が必要であり、報酬に見合う専門職を作りだすこと」が今後の日本の流れとなることを望みます。

私たち「医療通訳者は謙虚に学び続けること」が大切です。

医療従事者対象の養成講座などのMEDINTの活動はこれからの私たちの活動の見本です。

群馬の医療通訳の皆さんが切磋琢磨しあい、学び続けられるよう、是非とも頑張りましょう。通訳者はプロ集団の皆さんの中で役割を担うことができるよう、気を引き締めて学ぶ必要があると思います。

## 第2部 パネルディスカッション

### 1 座長 群馬大学 山口和美氏

群馬県の医療通訳ボランティア制度を国際課課長の時に制度化された山口先生のご報告は、「群馬の外国人の事情、群馬県の病院宛のアンケート調査結果報告」など広範囲にわたるもので、今後の群馬の制度を考えるうえで貴重なものでした。原の抜粋でご紹介します。

- ① 20歳から50歳未満の人口で見ると、外国人の方が多い
- ② 20歳代では3分の2以上が外国人である
- ③ 外国の方にとって最も必要な情報が医療関係である
- ④ 病院内では受付・診療・支払の多言語資料化、会話集、アプリが必要
- ⑤ 70パーセント以上の病院が医療通訳を必要としている
- ⑥ 英語、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、スペイン語の順に需要が多い
- ⑦ 医療通訳が必要な理由は、受付・診療のスムーズ化、症状・入退院の説明の正確化、患者の安心のため
- ⑧ 制度利用で払えるお金は2000円以下が75%
- ⑨ 医療通訳制度を利用する25%、わからない55%
- ⑩ 医療通訳を利用しない理由  
患者がない 対応できる 経費がかかる 体制が取れない

### 2 群馬県 人権男女多文化共生課 井田智則氏

### 「群馬県医療通訳ボランティア制度」

群馬県の制度のご紹介、連携病院のご説明の他、登録者数に対して実働数が少ないため新規にステップアップの講座が予定されていること、ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・希少言語登録者の養成が必要なこと、救急時対応が課題であることなどが報告されました。

制度の普及に力を入れておられるというお話を嬉しく思いました。

コメンテーターの先生、パネリストの方から、通訳を派遣できる患者さんに条件があることについては検討が必要であるというご意見がありました。命を守る医療にかかわる医療通訳の派遣が患者さんの在留資格により左右されてはいけないという貴重なご意見でした。

## 3 パネルディスカッション

### 「外国人を取り巻く医療環境の現状と課題」 「課題解決と今後の方向性」

パネリスト：

群馬県医療ソーシャルワーカー協会	風穴恵美子氏
群馬大学医学部附属病院血液内科助教	柳澤邦雄氏
医療通訳	岩井愛氏

#### ① 群馬大学医学部附属病院血液内科助教 柳澤 氏

普段私たちが触れることのないH I V患者さんの治療の様子、外国人患者さんである場合の病院での対応、治療の中で言葉が必要とされる場面についてお話いただきました。

特殊な分野であり、やはり専門的に対応をされているSHARE等から通訳をお願いしていること、信頼できる方をお願いしていることをご説明いただきました。

お忙しい医療現場で文化等多様な配慮が必要な場合にはどのように対応をされることになるのか・・・など難しい質問にもじっくりお考えいただきお答えいただきました。

会場の皆様から患者に対する説明責任、医療通訳の使い方などご指摘もありました。

医療倫理、患者の権利、医療通訳の使い方など、様々な観点から関係者の皆さんにお集まりいただき、検討される機会が必要です。

医療通訳者は、信頼されるものとなるよう、医学・言語以外にも多くのことを学ぶ必要

があります。医療の現場の皆様から教えていただかなければならないことが多くあります。また、医療通訳の場を提供していただくことで医療の現場の厳しさを知る必要があります。医療通訳としての覚悟が必要です。

## ② 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 風穴 氏

館林からおいでいただきました。東毛の外国人患者さんのご様子、病院の形態によるSWのみなさんのお仕事の違いなどにもご配慮いただき、SWの皆さんのお話をまとめてご説明いただきました。

患者さんを社会資源につなぐ役割であり、病院内ではお医者様と患者さんの関係を調整し、医療通訳をコーディネートするという大切な役割を担っておられるSWの皆さんの大変さを知りました。

救急の場合の通訳、家族や友人の通訳、個人情報と通訳、病状説明の曖昧さによる誤解、痛みに対する対応の文化的違いからくる不信感など医療の現場での外国語を母語とする方への配慮はSWのみなさんから学ぶことが多くあります。

未払いの医療費については、分割でしっかり払ってくださる外国語を母語とする方のお話をお聞きし、嬉しく思いました。社会保険未加入、医療費未払いの問題は徐々に改善されています。群馬県・市町村の未払い医療費補填の制度のご説明もありました。

## ③ 医療通訳 岩井氏

労働基準監督所でのお仕事、県の医療通訳ボランティア、友人などからのご相談で通訳として忙しく対応をされる岩井さんのお話は、二つの文化の間で通訳として克服してこられた世界の大変さを教えていただくものでした。

通訳を利用する方の社会的・経済的状況から医療通訳に支払われる料金は考慮される必要があると感じました。貧困と病気、病院経営・・・考えることは尽きませんが、しっかりと検討される必要があると思います。

「外国人だからというのでなく・・・」という岩井さんの言葉には、「困った時にはお互い様。仕事としてするからには、しっかりと仕事として最善を尽くす。」という毅然としたご姿勢が、伺えるように思いました。

社会にお役に立ちたいという気持ちはボランティアですが、医療通訳が仕事として認識され、責務にあった医療通訳者が育つことが大切だと私は思います。

会場の皆様からも多くのご意見をいただきました。

有難うございました。

❖ 当日ご都合により先にお帰りになられコメントをいただきそびれてしまいました、藤田保健衛生大学の服部しのぶ先生からいただきましたコメント概要を原の抜粋でご紹介いたします。

- ・群馬も、通訳者を養成し認定し派遣しているので、素晴らしい。
- ・派遣事業も、愛知県と同様、認定通訳者の稼働率が高くないこと、派遣される人が固定化される傾向があること、ペイの低さは共通して問題点として指摘できる。
- ・医療通訳者を「ボランティア」として認識している。「ボランティア」感が抜けきらないあたりを変えていかないと、医療通訳者が育っていかない。



当会は今後、団体のNPO化、派遣団体への準備に入ります。

これからも「群馬の医療と言語・文化を考える会」の活動にご協力・ご支援を賜りますようお願い致します。

皆様からのご意見もお待ちいたしております。

言葉と文化を理解することは、その人の命・健康・人生にかかわることであるということを私たちは忘れてはならないと思います。

外国語を母語とする方の健康を守るために、皆さんの様々な取組が手をつなぎ、懐の深い群馬に育っていただけるようにと心から願います。

シンポジウムの準備にご協力をいただきました皆様、会員の皆様、本当に有難うございました。お疲れ様でした。

皆様のご支援に心から感謝いたします。

群馬の医療と言語・文化を考える会  
原美雪